

日本國際問題研究所中國部會編

中國共產黨史資料集

8

一九三五年十月—一九三七年九月

勁草書房刊

中国共産党史資料集 第8巻

1974年4月30日 第1版第1刷発行

©編者 日本国際問題研究所
中国部会

発行者 井村 寿二
東京都文京区後楽2-23-15

印刷者 小林 清
東京都港区三田5-12-1

発行所	東京都文京区 後楽2-23-15 振替東京175253	株式会社 勁草書房
-----	-----------------------------------	--------------

落丁本・乱丁本はおとりかえいたします。

Printed in Japan

図書印刷・和田製本

3331-335803-1836

* 定価は外函に表示してあります。

凡例

(1) 本資料集は、ほぼ五・四運動前後から一九四五年、太平洋戦争が終るまでの中国共産党に関する基本的資料を翻訳採録したものである。選択の基準は、第一に中共中央の発出した重要資料およびコミンテルンの中国関係の重要資料、第二に中共中央に準ずるか、あるいはこれを代表すると思われる個人・団体・政府の名（たとえば、毛沢東・王明・共産主義青年団・辺区政府等）で出された資料、第三に中国共産党と深い係わり合いをもつ大衆的諸団体（たとえば、中華全国総工会等）の名で発表された資料の順である。

(2) 本資料集は全一二巻におよび、各巻毎に、採録した資料についての編注・資料・資料目録・年表・使用文献資料一覧表およびその解題・索引を、この順序に従って掲載した。資料の配列は執筆ないし発表年月日の順とし、年月日の不明のものについてはその資料が掲載された文献の発行日付に従うか、あるいは推定によった。

(3) 複数の原典をもつ資料に関しては、原則として最も早い時期に公表されたと思われるものを原文として採用した。掲載した資料は、今回新たに訳されたものが多いが、従来翻訳され

ていたものについてはこれを参照するか、あるいはその翻訳者の校閲を経て転載したものもある。選択したもののうち、日本語訳のみあつて原資料の見出し得ないものは、やむをえずそのまま採録した。ただし重要な資料ではあるが、わが国において今日はなほだ容易に日本語訳を見ることが出来るものについては、多くを掲載しなかった（たとえば『毛沢東選集』所収の資料など）。

(4) 紙数の制約により、重要と思われるかなりの資料を割愛せざるをえなかったが、本資料集作成の際に蒐集した各種の文献資料の中から重要と思われるものを選び巻末の資料目録に掲載したので、これを参照されたい。資料目録の記述は発表年月日、発出者あるいは著者、資料原名、所収原典の順とし、原典が複数の場合は、原則的にはすべて記した。ただし原典を蒐集しえなかったものについては、後世編集された資料集から採り、その名を記した（たとえば、『赤匪反動文件集編』『革命文献』『共匪禍国史料集編』など）。また同様に原典を見出しえず日本語訳のみがあるものは、やむをえずそれからとった。発出年月日不明の場合は、明記しないまま、その前後を適宜判断

して配列した。

(5) 資料目録を利用する際の便宜のために、とくに重要と思われる事項、および事件を年表として上段に付した。また使用文献資料一覧表では、重要かつ初出のものについてのみ簡単な解題を付した。

(6) 使用文字は資料原名・所収原典名および原意を忠実に伝えるのに必要と思われる場合にのみ原文の通りとし、その他は新字体を用いた。

(7) 翻訳文は校閲して用語の統一等を行なったが、責任の所在は翻訳者にあるので、各資料の末尾に翻訳者名を記した。なお訳語は、原則として固有名詞は原語のままとし、その他は翻訳してある。訳文中、「」の部分は訳注あるいは編者注、ないしは訳者が言葉を補ったものである。

(8) 編注は、原則として採録資料の背景（日付、場所、発出

者、前後の状況など）および参考資料をあげるに止めてある。

(9) 本資料集の編纂事業は、第一期に七年、第二期に三年の年月を要した。そのため、途中で編集者に若干の異動があった。各巻の扉裏の編集者一覧に多少の変動が生じた所以である。

(10) 本資料集には、なお不備な点や推敲の不十分なところも多く、また誤りなきを期しがたい。読者各位の叱正を待つものである。

(11) 本巻は、第一方面軍の長征が完了した一九三五年一〇月から、「七七事変」を経て第二次国共合作が正式にスタートする一九三七年九月までの二年間を扱っている。この間、中国共産党の統一戦線政策を決定した瓦窑堡会議や抗日戦争初期の方針をうち出した一九三七年の延安党代表者会議・洛川会議などの諸決定、国共合作への歩みを示す文書、日中戦争勃発に対する党の対応など、計98篇の資料が収められている。

目次

資料1	東北抗日連軍が関内の軍政指導者に呼びかけた電報（一九三五年一〇月一日）	3
資料2	中華ソヴェト共和国中央政府西北弁事処 訓令第一号——ソヴェトの財政について （一九三五年一月一六日）	6
資料3	中華ソヴェト人民共和国中央政府・中国抗日紅軍革命軍事委員会 抗日救国宣言 （一九三五年一月二八日）	7
資料4	紅軍指導者が全国の各軍指揮官に抗日を呼びかけた至急書簡（一九三五年一月二八日）	9
資料5	中華ソヴェト共和国中央政府西北弁事処 布告——現金の流出防止について（一九三五年一月一日）	12
資料6	北平学生連合会の宣伝大綱（一九三五年一月二〇日）	13
資料7	中共中央 全国民衆・各党派およびすべての軍隊に告げる宣言（一九三五年一月一四日）	15
資料8	中華ソヴェト共和国中央政府執行委員会 命令新字第二号——富農政策の変更について （一九三五年一月一五日）	17
資料9	中華ソヴェト人民共和国中央政府 内モンゴル人民に対する宣言（一九三五年一月二〇日）	18
資料10	共青团中央 抗日救国のために全国各校の学生および各界青年同胞に告げる宣言 （一九三五年一月二〇日）	21
資料11	中共中央政治局會議（瓦窑堡會議） 当面の政治情勢と党の任務についての決議（一九三五年一月二五日）	24
資料12	毛沢東 日本帝国主義に反対する戦術について（一九三五年一月二七日）	42

資料13	吳亮平 富農に対する戦術を変更する問題について（一九三五年末）	57
資料14	王明（陳紹禹） 中国共産党の新政策の基礎（一九三五年十二月二八日）	63
資料15	王明（陳紹禹） 中国の反帝国主義戦線に反対する主要議論に答える（一九三六年一月一日）	71
資料16	王明（陳紹禹） ソヴェト政府と国防人民政府の關係（一九三六年一月二五日）	76
資料17	中華ソヴェト人民共和国中央政府西北弁事処土地部 訓令——春耕運動について（一九三六年一月二八日）	79
資料18	施平 ある英雄的な行軍——行軍の目的は達成された（一九三六年一月）	82
資料19	楊松 満州における反帝国主義統一戦線について——満州の占領と抗日民族解放運動（一九三六年一月）	105
資料20	李光 中国労働紅軍所見——紅軍政治工作員の手記（一九三六年一月）	117
資料21	王明（陳紹禹） われわれの工作の全分野における転換のために（一九三六年二月八日）	128
資料22	東北抗日連軍統一軍隊建制宣言（一九三六年二月二〇日）	132
資料23	中華ソヴェト人民共和国中央政府 全国抗日救国代表大会の召集についての通電（一九三六年二月二日）	134
資料24	毛沢東・王稼璽の『紅色中華』社記者とのインタヴュー（一九三六年三月頃）	136
資料25	彭德懷・毛沢東 中国人民紅軍抗日先鋒軍の布告（付）「抗日人民紅軍への参加は中国人民の起死回生の活路である」「閻錫山の十大罪状」（一九三六年三月一日）	141
資料26	中共中央北方局 抗日救国宣言（一九三六年三月一〇日）	143

資料27	中華ソヴェト人民共和国中央政府西北弁事処土地部 訓令——労働互助社の組織について (一九三六年三月二八日)	149
資料28	中共中央西北局・中華ソヴェト人民共和国中央政府西北弁事処 富農に対する戦術の変更 について各級党部およびソヴェトに与える指示(一九三六年四月四日)	151
資料29	毛沢東・朱徳 売国奴蔣介石・閻錫山が中国人民紅軍抗日先鋒軍の抗日東征を阻み、抗日 の後方を攪乱することに反対する宣言(一九三六年四月五日)	155
資料30	毛沢民 陝甘ソヴェト区における経済建設(一九三六年四月一三日)	157
資料31	中共中央 全国各党各派の抗日人民戦線を創設することについての宣言(一九三六年四月 二五日)	162
資料32	中華ソヴェト人民共和国中央政府・中国人民紅軍革命軍事委員会 停戦議和・一致抗日の 通電(一九三六年五月五日)	164
資料33	中華ソヴェト人民共和国中央政府西北弁事処土地部 訓令——夏耕・夏収問題について (一九三六年五月九日)	166
資料34	胡風 人民大衆は文学に何を求めているか?(一九三六年五月九日)	168
資料35	中華ソヴェト人民共和国中央政府 回族人民に対する宣言(一九三六年五月二五日)	171
資料36	全国各界救国連合会 抗日救国の初歩的政治綱領(一九三六年六月一日)	174
資料37	中華ソヴェト人民共和国中央政府・中国人民紅軍革命軍事委員会 兩広の北上抗日出師に 際しての宣言(一九三六年六月二日)	182

資料38	中共中央 当面の政治情勢についての決議（一九三六年六月一日）	185
資料39	中華ソヴェト人民共和国中央政府西北弁事処 布告——商品流通の活発化について （一九三六年七月三日）	190
資料40	中華ソヴェト人民共和国中央政府西北弁事処 布告——食塩・布類の処理など、ソヴェト 区金融強化の具体的方法（一九三六年七月八日）	191
資料41	王明（陳紹禹） 現下の中国政局の活路——内戦を停止し、一致抗日せよ——（一九三六年七月 二日）	193
資料42	中華ソヴェト人民共和国中央政府 哥老会に対する宣言（一九三六年七月二五日）	204
資料43	エドガー・スノー 共産党指導者毛沢東との会見記（日本帝国主義について）（一九三六年 七月一六日）	206
資料44	中共中央南方局 両広事変についての決議——軍閥戦争を反帝・反国民党の革命戦争に転 化せよ——（一九三六年七月一七日）	216
資料45	中共中央 土地政策についての指示（一九三六年七月二二日）	222
資料46	洛甫（張聞天） 両広事変の教訓（一九三六年八月二日）	224
資料47	周揚 茅盾先生と国防文学のスローガンを論ず（一九三六年八月）	235
資料48	魯迅 徐懋庸に答え、あわせて抗日統一戦線の問題について（一九三六年八月三日—六日）	240
資料49	毛沢東 全国各界救国連合会の四領袖に宛てた書簡（一九三六年八月一〇日）	252
資料50	中共中央 中国国民党に宛てた書簡（一九三六年八月二五日）	258

資料51	王明(陳紹禹)	中国人民の独立と自由をめざす闘争の十五年(一九三六年八月).....	267
資料52	陳伯達	文学界は二つのスローガンの問題について休戦すべきである(一九三六年九月一六日).....	285
資料53	中共中央政治局	抗日救亡運動の新たな情勢と民主共和国についての決議(一九三六年九月一七日).....	289
資料54	毛沢東	蔡元培に宛てた書簡(一九三六年九月二日).....	295
資料55	エドガー・スノー	共産党指導者毛沢東との会見記(統一戦線について)(一九三六年九月二三日).....	297
資料56	『紅色中華』社論	毛主席の談話(一九三六年一〇月二日).....	301
資料57	中共中央・中国ソヴェト中央政府	綏遠抗戦についての通電(一九三六年二月一日).....	303
資料58	毛沢東・朱徳らが蔣介石に宛てた書簡	(一九三六年二月一日).....	305
資料59	張学良・楊虎城らの時局についての通電	(一九三六年二月二日).....	307
資料60	西安事変についてのモスクワの論評	——抗日運動における新たな亀裂——(一九三六年二月一四日).....	309
資料61	中華ソヴェト中央政府・中共中央	西安事変についての通電(一九三六年二月一九日).....	312
資料62	西北各界救国連合会	各党各派に告げる書(一九三六年二月二日).....	313
資料63	毛沢東	蔣介石声明についての声明(一九三六年二月二八日).....	317
資料64	中共中央北方局	西安事変の和平解決についての宣言(一九三六年二月二八日).....	320

資料65	毛沢東 中国革命戦争の戦略問題（一九三六年二月）……………	324
資料66	中共中央・中華ソヴェト中央政府 和平と内戦停止を呼びかける通電（一九三七年一月九日）……………	384
資料67	中共中央 国民党五期三中全会に宛てた電報（一九三七年二月一〇日）……………	385
資料68	中国国民党五期三中全会 赤禍根絶決議（一九三七年二月二日）……………	387
資料69	毛沢東 中国抗日民族統一戦線の現段階における任務——延安共産党活動者会議での報告 テーゼ（一九三七年四月一〇日）……………	391
資料70	中共中央 全党同志に告げる書——国内和平の強化、民主的権利の獲得、対日抗戦の実現 のために闘おう——（一九三七年四月一五日）……………	402
資料71	周恩来 国民大会法規の改正についてのわれわれの意見（一九三七年五月一日）……………	410
資料72	毛沢東 数百万数千万の大衆を抗日民族統一戦線に引き入れるために闘おう——ソヴェト 区党代表大会における政治問題についての結語——（一九三七年五月七日）……………	416
資料73	毛沢東 スペイン人民に宛てた手紙（一九三七年五月一五日）……………	424
資料74	林伯渠 ソヴェトから民主共和制度へ（一九三七年五月三一日）……………	427
資料75	中共中央 日本軍の蘆溝橋進攻に際しての通電（一九三七年七月八日）……………	434
資料76	日本侵略者の華北進攻に際して紅軍指導者が宋哲元らに宛てた通電（一九三七年七月八日）……………	436
資料77	日本侵略者の華北進攻に際して紅軍指導者が蔣介石に宛てた電報（一九三七年七月八日）……………	437
資料78	凱豊（何克全） 抗日民族統一戦線の段階における農村革命の政治綱領（一九三七年七月八日）……………	438
資料79	中国人民抗日紅軍 華北当局および二九軍將兵に宛てた至急書簡（一九三七年七月九日）……………	448

資料 80	中国人民抗日紅軍 蘆溝橋事変に際して各方面に宛てた至急書簡(一九三七年七月九日)……………	449
資料 81	中共中央 国共合作を公布するについての宣言(一九三七年七月一日)……………	451
資料 82	朱德 対日抗戦を實行せよ(一九三七年七月一日)……………	453
資料 83	全国各界救国連合会 北方防衛に際しての緊急宣言(一九三七年七月一日)……………	464
資料 84	蔣介石の廬山談話(一九三七年七月一日)……………	468
資料 85	中共中央 日本帝國主義の華北進攻に際しての第二次宣言(一九三七年七月二日)……………	472
資料 86	毛沢東 日本帝國主義の進攻とたたかう方針・方法およびその前途について(一九三七年七月二日)……………	475
資料 87	中共中央組織部 抗戦中の地方工作の原則についての指示(一九三七年八月二日)……………	483
資料 88	凱豊(何克全) 和平・統一をそこなう陰謀に反対する(一九三七年八月二日)……………	486
資料 89	中共中央宣伝部 中日戦争の当面の情勢と任務についての宣伝・煽動大綱(一九三七年八月一日)……………	490
資料 90	中共中央(洛川會議) 当面の情勢と党の任務についての決定(一九三七年八月二日)……………	495
資料 91	朱德・彭德懷 八路軍総指揮、副総指揮就任通電(一九三七年八月二日)……………	497
資料 92	陳紹禹 日本侵略者の侵略の新段階および中国人民の闘争の新時期(一九三七年八月下旬)……………	498
資料 93	国 戦闘中の東北抗日連軍(一九三七年九月六日)……………	522
資料 94	洛甫(張聞天) 抗日民族革命戦争の持久性について(一九三七年九月一日)……………	530
資料 95	中国共産党の国共合作宣言についての蔣介石談話(一九三七年九月二日)……………	538

資料96	中共中央	日本の陸海空軍兵士に告げる宣言（一九三七年九月二五日）	540
資料97	朱徳・彭徳懷等	中国紅軍の日本人兵士に告げる書（一九三七年九月二五日）	543
資料98	毛沢東	国共兩党の統一戦線成立後における中国革命のさし迫った任務（一九三七年九月二九日）	545
資料目録			555
使用文献資料一覧表			
索引			

中国共产党史资料集

第八卷

資料1

東北抗日連軍が関内の軍政指導者に
呼びかけた電報 (一九三五年一月一日)

「東北抗日連軍向關内軍政領袖呼籲電」(「東北抗日聯軍第四軍」孫杰著 巴黎救國出版社 一九三六年刊 九一—九四ページ)

〔編注〕これは「八一宣言」(第七卷資料68)に依って發表された、共產党の指導する東北抗日連軍の抗日アピールである。この通電が林森南京政府主席、蔣介石総司令、張学良東北軍総司令らを朱德・毛沢東とならべてその宛先としており、しかも彼らとの間に、国防政府と全国抗日連軍総司令部の樹立、抗日連軍の編成を呼びかけていることが注目される。これは、四ヶ月前の六月二〇日に、同じ彼らが反日反蔣連合軍の組織化を満州民衆に呼びかけていた(“Aufruf an das Mandschurische Volk anlässlich der Ereignisse in Nordchina”, K. I. Jahrgang 17, Sonderheft)のやへるゝと、一〇の転換といえよう。一〇月以降、東北各地では従来の「下層統一戦線方針」が緩和され、各種抗日武装勢力との連合がすすめられ、土地革命も事実上行なわれなくなったという(『滿洲共產匪の研究』(一)、一九三七)。なおこの通電に依って、一月二八日には朱德・周恩来・林彪らが連名で、東北抗日連軍楊靖宇らおよび蔣介石・李宗仁・閻錫山らに、抗日のための国防政府および抗日連軍樹立の呼びかけを行なっている(資料4参照)。

南京の林〔森〕主席、四川の毛〔沢東〕主席、南京の蔣〔介石〕総司令、中国紅軍の朱〔德〕総司令、広東の陳〔済棠〕総司令、広西の李〔宗仁〕総司令、香港の陳銘枢先生、李濟深先生、宜昌の陳〔誠〕行營主任、山西の閻〔錫山〕綏靖主任、平津の宋〔哲元〕綏靖主任、東北軍の張〔学良〕総司令、于〔学忠〕指揮、前抗日連軍の方振武將軍、孫殿英將軍、西安の楊〔虎城〕主任、長沙の何〔鍵〕主席、重慶の劉〔湘〕主席、西寧の馬〔步芳〕鎮守使、迪化の盛〔世才〕督弁、甘肅の朱〔紹良〕主席、馬鴻逵軍長、一九路軍蔡〔廷楷〕軍長、西北軍の馮〔玉祥〕総司令、黄埔軍官学校、中央軍官学校、保定軍官学校および全国の各陸海空軍学校の生徒諸君、前東北義勇軍の馬占山・李杜・王德林各將領、全国各省市県政府、全国各軍、師、団の營、連、排長〔營は大隊、連は中隊、排は小隊—訳注〕ならびに兵士各位、全国の各商会、農民協會、労働組合、学生会、教職員連合会、婦人会、弁護士会、およびその他の各法曹団体に呼びかける。全国の各新聞社、通信社、ならびにこれらを通じて全国の同胞各位に呼びかける。

日本侵略者がわが東北を亡ぼしてからすでに四年になる。わが東北の三五〇〇万の同胞は四年このかた、亡国の苦しみをいやというほど味わわれた。わが国の鉄道、鉱山、銀行、土地、兵器はすべて日本侵略者に没収され、わが国の商工業は排斥され、家屋は焼き払われ、婦女子は強姦され、人民は殺害・逮捕